



平野 羽菜

The best of
off the pitch



闘う姿勢

千葉 紋衣里

金森 百香

「全部取りにいけ！」言葉にすることは簡単だけど、終わりのホイッスルがなるまでやりきれる選手はそうそういない。2年生で入りまだ一年もたたない絵衣里は、入ってから気付けば直ぐに仲間になっていた。相手が高学年だろうがなんのその。遠くで見ても、絵衣里の活躍は一目瞭然だ。

「今一番成長してる選手は？」ときかれたら「百香」と即答できる。ゴールデンエイジをひしひし感じている。{観て・判断して・実行する}に強さと冷静さをかねそなえた勢いがある。その強度を保ったまま闘う姿は、先輩達にも刺激を与えるほど。同学年は個性豊かなだけにチームとしての成長にワクワクがとまらない。

相手に対して【闘う姿勢】が突き抜けているのは。誰もが羽菜を思い浮かべるだろう。ボールに合う。ボールに触る。6年生の大会でも羽菜が一番では。サッカーで楽しい時はボールをさわっている時と言うほど真のフットボーラーな羽菜。味方からのパスを相手を引きつけるために足元に置くコントロール。あえてためをつくったところからの加速での突破は、バロンドール史上最多の7度受賞のリオネル・メッシを彷彿とさせる。相手がボールを取りにこようものなら、全身でブロック。決してキープではない。ゴールを目指すための運ぶ姿勢だ。Wカップ後もうシュートはかちあげないと。宮崎コーチの話を聞いた次の大会で、ゴールネット上に羽菜は弾丸シュートを、しぼってボール奪取からサイド突破しポケットに侵入、そのままGKニア上にかちこんでいた。間接FKで味方がマークされてると即座に判断すると、審判が対応できないはやさでGKにさわらせて決めるシュートを実行する。逆サイドが突破されそうになると反対のタッチラインから反対のタッチラインまでクリアしにくる。優れた嗅覚を活かしアラートで、試合を決定付ける活躍が出来る羽菜は皆の憧れだろう。

